

# Multicultural Training

製造業T社の事例をご紹介します。

それまで、技能実習生を受け入れていたため外国人社員と接する機会はあったものの、共有言語の日本語を通じてコミュニケーションを取ることは多くなかった。

結果、機械操作における安全指導が行き届かずヒヤリハットが増えたり、ホームシックになって働けなくなった人が出たり、地域住民とのトラブルを未然に防げなかったりの問題が発生した。

その対策として、日本語のできる外国人留学生の採用に乗り出したが、言葉の面のみ解決しても、また新たな問題が発生するだろうと考え、根本的な解決を図るべく役員及び現場管理責任者向けに「異文化コミュニケーション」と「異文化理解」の研修を実施することを決定した。

## BEFORE

## OUR TRAININGS

### 1.異文化コミュニケーション研修 基礎編

1回60分の研修を2回実施。

- なぜ人はわかりあえるのか？相互理解の原点を探る
- 「理解」と「共感」の間で自らを律する
- 違いをこえるワザ5選

### 2.異文化理解研修 現代ベトナム編

1回60分の研修1回実施。

- 「国」の概念と意味を知る。違いを突きつける分断の思想
- 「文化」とは何か？越えられない壁の存在
- まずはここから！現代ベトナム概論

## AFTER

研修後、  
「外国人社員と接する日本社員の数が増えた」  
「ベトナム社員が前よりも積極的に話してくれるようになった」  
「『実は何をいっているかわからなかった』などの本音が聞けるようになった」  
等の成果が出ている。  
研修を受けた方々の感想を一部紹介します。

「話しかけない」ということが、いかに悪影響を及ぼすのかがよくわかった。」

「今までは何を話せばいいかわからなかったですが、接し方を学ぶことで話題に頭を悩ませることはなくなりました。」

「『過去よりも先に今を知りなさい』というのは説得力があった。自分もベトナム社員も一緒に過ごしている今をどう分かち合うかを意識して働いています。」